

努力事項解説 その2 (小学校音楽)

「児童が、音楽を形づくっている要素を聴き取り、音楽のよさや美しさと結び付けて感じ取ることができるような授業の展開を構想する。」の実践のポイントを考えていきます。今回は、6年生の「物語と音楽」のポイントの続き（その2）です。

- 第6学年 題材「物語の音楽」の場合の続きです。前回、前々回と併せて見てください。この題材では、高学年の学習内容の

A表現「(3) 音楽づくりの活動を通して、次の事項を指導する。」の、
「イ 音を音楽に構成する過程を大切にしながら、音楽の仕組みを生かし、見通しをもって音楽を作ること。」及び
B鑑賞「(1) 鑑賞の活動を通して、次の事項を指導する。」の、
「イ 音楽を形づくっている要素のかかわり合いを感じ取り、楽曲の構造を理解して聴くこと。」

を、共通事項の「旋律」「強弱」「速度」「音色」「反復・変化」「音楽の縦と横の関係」などと関連させて指導するようになります。

- (1) 『海のイメージから音楽を作ろう』のポイント
ここでは、

「音色」「旋律」「強弱」「速度」「音の重なり」「反復」「変化」などのいろいろな要素や仕組みを、どのように音楽表現に生かせば自分のイメージどおりの音楽になるか、自分の新しい考えをもって即興的に表現すること。

をねらいとしています。このねらいを達成するには、次のような方法が考えられます。

『ポイント』 ～ イメージ（感情）と音楽の要素を関連付けて創りましょう ～

表そうとしていること（波、のぼる朝日、注ぐ光）を直接音楽にすることはできません。それらのイメージを感情に置き換え、その感情を音楽の要素を使って音楽にしていきます。例えば、

- A 波 → 大きな嵐の時のような波 → 激しい、恐ろしい → フォルテッシモ
→ 波のぶつかる音（シンバル）、短調の和音、不協和音等
- B 波 → 風の穏やかな波 → 穏やか、やさしい → ピアノ（小さい音）やなめらかな上昇音程、下降音程の繰り返し、テンポはゆっくり
- C のぼる朝日 → 暗闇から明るく スケール大きい → 雄大・荘厳
→ ゆったりしたテンポ、フォルテ
- D 風 → 強い風 → 勢い、冷たさ → 速いテンポ、動きの速い旋律

などです。児童との会話やワークシートで、どういうイメージや感情だから、どういう音楽にしたいという「思い」「意図」を明確にして音楽づくりを進めていきましょう。



今回は、中学校の努力事項「生徒の実態とねらいに応じて、多様な学習形態を取り入れ、友達と思いや意図を共有しながら音楽表現をして、協同する喜びが感じられるような授業を展開しましょう。」について考えていきます。9月13日（金）頃アップする予定です。